

毎週日曜発行
2022 6/12

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



地球のためにできること

豊かな森 最大限に活用



みんなが住む地域に、森はあるかな？ 大崎市鳴子地区では、七つの団体・企業が協力して、地元の豊かな森を最大限に活用してエネルギーを生み出す「VEESTA(ウ

きょうのテーマ

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



木から電気と熱生み出す

プロジェクト」に取組んでいます。国連の持続可能な開発目標(SDGs)にある「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を体現する取組みだよ。

鳴子地区には、地元の人材を使い、伝統工法の「板倉構法」で建てられたアパート4棟(16世帯)が並び「サステイナヴィレッジ鳴子」があります。プロジェクトを実証する場として整備されました。敷地には、木質チップを燃料にする発電装置とボイラーを備えたエネルギー棟があり、生み出された電気と熱で30世帯をまかなえます。余った電気は隣の加美町の会

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



16世帯が入居し満室のサステイナヴィレッジ鳴子のアパートを案内する斎藤さん

プロジェクトに参加する環境教育団体「鳴子温泉もりたびの会」事務局の斎藤理さんは「伐採して製材するだけでな



社に売っています。

く、今まで廃棄されていた木の皮や枝葉を無駄にせず、燃料として使う。木を全て使い切ります」と説明します。プロジェクトは鳴子地区の8割を占める森林を生かそうと、2020年に本格的に始まりまし

森の保全には、100年以上の時間が必要です。次世代にプロジェクトの意義を伝えるために、教育活動にも力を入れています。「東日本大震災後、各地で植林活動が行われたが、大切なのは植えた後。幼い頃から森に親しんでほしい」。斎藤さんは、プロジェクトの普及とともに、森の体験プログラムを充実させたいと考えています。



た。「地元の木で作ったエネルギーを地元で供給、販売することで、地元でお金が循環する。そのお金が雇用につながる、森の管理ができるようになる」と斎藤さん。

今週の注目ニュース

◇6月14日(火) 国際献血者デー
無償で血液を提供する献血者に感謝し、血液を必要とする患者がいることを知ってもらうために、2004年に始まったよ。ABO式血液型を発見したカール・ラントシュタイナーの誕生日なんだって。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー